

徒然なるままに…40

— いよいよ、いよいよです！ —



平成27年10月30日
白鳥小学校 研修部

遅いかも
しれませんが…

体育館の仕構え、廊下や教室掲示、そして、先生方の、本時案を最後まで検討される姿とほどよい緊張感のある顔と、全国大会に向けて着々と準備が進むごとに、いよいよやってきたという気持ちでいっぱいになっています。今朝は、どんな朝を迎えられましたか。私は、昨日見た「Yahoo!占い」の今日の運勢がよくなく、少々ブルーだったのですが、今朝、ある占いの運勢に、「身近な場所でラッキーなことが起こる。」とあったので、それを信じてがんばることにしました。

さて、今回は、先週いくつかの学級の授業を参観させてもらって感じたことを、この期に及んでお伝えしようと思います。もしかしたら、もう遅いかもかもしれませんが、授業は、まだこれからですから、よかったら、参考にしてください。

一つ目は、授業を「ストーリー」として進めることです。これについては、以前、単元展開についての際に少しお話したかもしれませんが、今回は、1時間の授業における「ストーリー」を考えてみてください。

まず、導入では、どう問いを導き出すか、どんな事実で問いに至らせるかを考える必要があるでしょう。そのためには、資料の内容や読み取りを促す発問の検討が必要となるでしょう。「えー、なんで?。」、「どうしたらいいんだろう。」という疑問を通して、子どもを学習に引き付けるよう仕掛けるのです。

次に、問いについての探究過程にメリハリを付けることです。そのために必要なのは、授業の盛り上がり・ピークを考えておくことです。つまり、授業のどこに、どのように盛り上がりを持っていくかを意図的に考え、仕掛けるのです。

盛り上がり・ピークは、どこに持ってくればいいのでしょうか。2時間ドラマの盛り上がり・ピークは、証拠の説明の上、犯人が逮捕される場面です。とすると、授業では、問いに対する答えを練り上げるときだと考えられます。しかし、単に、問いに対して、答えを出していく一問一答の学習展開では、子どもは、答えを見つけるに過ぎず、答えに至るよう、思考することができません。そのため、端的に出された子どもの考えから、さらに深めたり、ひっくり返したりする事実(資料)を提示した上で、再度問うことによって、子どもを揺さぶったり、追い込んだりする必要があると思います。その際、淡々と授業展開するのではなく、先生たちも揺さぶられたり、追い込まれたりしているよう振る舞ったり、声や動作、テンポなどで演出したりしてみてください。

二つ目は、授業者の発言の精選です。一つ発問した後や子どもが発言した後、先生の筋書き通りに展開しなかったときなど、つい、発問を言い替えたり、補助発問をしたり、授業者ばかりが意見を言ったり、つなごうとしたりしてしまうことがあるのではないのでしょうか。

ここで必要なことの一つは、授業者が「待つ」ことです。「〇〇劇場」ではありませ

んが、授業者が授業の中心となって発言、活躍してしまう授業が少なくないように思います。問いを投げたら、先生方は、とにかく待って、子どもの思考と議論に任せるようにしてはどうでしょうか。

もう一つは、発問や指示の焦点化・明確化です。漠然と考えさせるのではなく、どこについて考えさせたいのか、何を考え、明らかにしようとしているのかというねらいと手立てを関連させて明確にすることです。例えば、資料を提示して、「気づきを挙げましょう。」と問い掛けると、子どもは、様々な観点から発言するので、授業者の意図することに行き着きにくいことが考えられます。そこで、「どのような変化の仕方をしていきますか。」と、「変化」を観点に資料を読みとるよう問い掛けると、子どもは、そこに着目して変化の仕方に気付くことができるでしょう。

また、こう問うても、思考が深まらなかったり、認識できなかつたりしたとき、どうするのかをできるだけ考えて準備しておくことです。例えば、メインの発問だけでは、期待する認識にたどり着かない場合、さらにどう問うて考えさせるか、さらにどんな資料提示をするかと、思考認識を支援するための手立てをできるだけ準備しておいて、適宜講じていくのです。

レセプションから帰ってこられた校長先生が、本校の取組や昨日の全体会での6年生の意見発表が話題になっており、言葉を掛けていただけたと話をされていました。多くの方々が見てくださっていることを感じました。

先生方は、これまで3年間にわたって研究推進し、授業づくりをしてこられました。お一人お一人が本校の授業論を解釈し、イメージされ、ご自分の持ち味を発揮して授業づくりを進めてこられました。そこが本校のすばらしさであり、力です。活躍する子どもの姿を通して、そんな白島らしさを存分に発揮できる1日にしたいと思います。

では、先生方、ご自分と子どもを信じて、平常心を忘れず、思い切りやり遂げましょう。

